

# かみす

Pick up

▶2023年度 市民相談

▶健康状態をチェックし元気に過ごそう



まちの魅力再発見

## 神福とコンシェルジュ

子育て支援の現在地

「神福」は、住民が安心して医療を受けるため、1973年に生まれた神栖市独自の制度です。その後も市では、子育てしやすいまちを目指し続けています。現在は、「子育てコンシェルジュ」が、多くの子育て支援から一人ひとりに合わせたサービスを案内しています。

「神福」誕生から50年、神栖市の子育て支援を紹介します。



AR

広報かみすが  
動き出す



[COCOAR]



アプリをダウンロードし  
表紙にスマートフォンを  
かざしてください。  
詳細は13ページ

# 神福とコンシエールジュ

子育て支援の現在地

「子育てしやすいまち」と市外からも評判の神栖市。安心して子どもを産み育てることのできる行政サービスや施設が充実しています。今回は、市独自の医療費助成制度「神福」と、子育てコンシエールジュにスポットを当て、神栖市の子育て支援に迫ります。



## 豊かな環境で子育てを応援

子どもは地域の宝。子どもたちの元気な姿は、まちに活気をもたらします。神栖市は、人口に占める子どもの割合が県内第5位と、子どもが多いまちです。また、児童館の数が県内第2位、公園の面積が県内第3位と、豊かな子育て環境が整っています。

市では子育て支援に力を入れており、毎年発行する『子育てガイドブック』には、妊娠・出産・子育てをサポートする制度や施設が約50ページにわたり、ぎっしりと掲載されています。関係する部署も子育て支援課、健康増進課、保健予防課、国保年金課、こども福祉課、第一学校給食共同調理場、学務課、住宅政

策課と多岐にわたり、まさに市を挙げて子育てを応援しています。

## 医療費を助成する「神福」

さて、妊娠中は産科・婦人科、子育て期には小児科と、若いファミリーは何かと通院する機会が増えるもの。日本は国民皆保険制度により医療費の負担は1〜3割と決まっていますが、それに加え県や市などの医療費助成制度があるため、実は住んでいる自治体によって医療費の負担が異なります。

神栖市には、医療費の負担を軽くする独自の制度「神福」があります。これは、県の制度である「マル福」に上乗せして、医療費を助成するもの。そもそもマル福とは、小児、妊

産婦、ひとり親、重度心身障害者が保険診療を受けたときに医療費を助成する制度です。

このマル福と神福ができたのは1973年。それから50年の間に神福は徐々に支給する対象を拡大し、より多くの人が医療を受けやすい制度へと進化してきました。特に、所得制限がまったくないのは、県内では神栖市を含めて2つの市だけ。子育て中のひとり親も助成を受けられます。

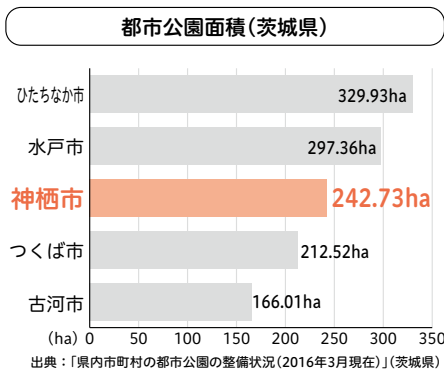
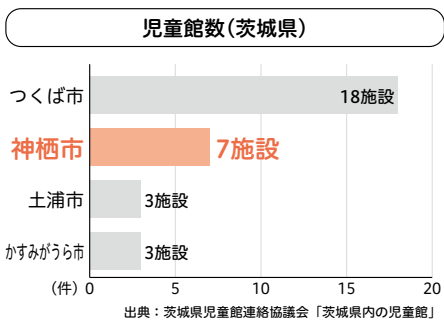
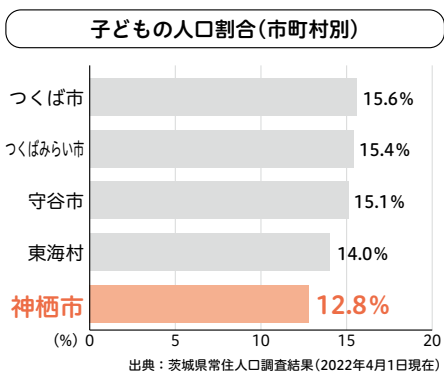
妊産婦への助成も手厚くなっています。マル福の場合は妊娠・出産に関連する産科・婦人科の受診に限られますが、神福はそれ以外の疾病でも大丈夫。また分娩者手当金として、子ども1人につき2万円が支給されます。さらに、中学生

先駆けて行なっています。マル福の場合は小学6年生までなので、その後の6年間は神福でカバーできます。

## 子どももママも神福を活用

周囲の人に神福について尋ねてみると、「出産のときは何かとお金がかかりますが、歯医者など産科以外も受診しやすいですね」「中高生になっても、医療費の心配がないので助かります」など、長い期間活用しているという声が多く聞かれました。

また「他のまちでは、所得が高いと補助が受けられないことがあります。神福はそんな人でも対象で助かっています」という声も。みんなが安心して医者さんに行ける、と感じているようです。



### 「神福」誕生から50年！

1973年、医療費の負担を軽減するために生まれた神栖市独自の制度です。社会ではオイルショックが起こった年です。市内では息栖大橋が完成、神之池緑地がオープンしました。神栖市は50年前から子育て支援を大切にしてきました。

と高校生の外来受診の助成も、他の自治体に



# 神栖市の子育て支援

妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目ない相談と支援を行なっています。  
今回は、その一部を紹介します。



## 子育て

### 小児～高校生相当の医療費助成

入院や外来も対象に医療費の一部を助成

### 小・中学校の給食費の助成

給食費のほぼ半額を市が負担

### 子育て応援券

小学校就学前児童の保護者に、市内協賛店で使える30,000円分のギフト券を贈呈



## 出産

### 1か月児一般健康診査費用助成

生後1か月の健診費用の一部を助成

### 産後ケア事業

出産後、親族などから家事や育児の援助が受けられない人は、医療機関などで、母の心身のケアや育児サポートを受けられる

### 分娩者手当金

子ども1人につき20,000円を支給

## 妊娠

### 子育て応援ギフトカタログ

出産前後の保護者を対象に贈呈

### 妊産婦の医療費助成

市独自で、産科・婦人科以外の疾病も対象に医療費の一部を助成

### マタニティセミナー

### ニューファミリーセミナー

初めての出産、子育ての不安を解消するためのセミナーを開催



子育てコンシェルジュが、一人ひとりに合わせた子育て支援をご案内



相談窓口の入口も親しみやすい雰囲気

神福の対象は妊婦さんや子どもだけではありません。重度心身障害者、戦傷病者も含まれます。また、68歳・69歳の方に助成しているのは県内では神栖市だけです。

神福について、自己負担金の決まり、県外の医療機関で受診した場合の手続き、支給方法(現物支給か、一旦支払って後から助成分を受け取るか)など、詳しくは市のホームページでも確認できます。出産した方や神栖市に転入してきた方などは、なるべく早く申請を行ない、ぜひ活用してください。

### 支援につながる案内役 子育てコンシェルジュ

神福はほとんどの市民に浸透していますが、その他にもとにかく神栖市の子育て支援制度は数が多く、どんどん新しい制度も加わっているため、自分で調べるのは大変！ そんなときの案内役が、子育てコンシェルジュです。

市では、2019年に子育て世帯包括支援センターを開設しました。ここで保健師と子育てコンシェルジュが、妊娠期から子育て期にわたって相談や支援を行なっています。

今回は、子育てコンシェルジュの柚木さん、早見さんに話を聞きました。2人とも保育士と幼稚園教諭の資格を持ち、市内の保育園や幼稚園で勤務した経験があります。2人はどのような思いで市民と向き合っているのでしょうか？

「子育てコンシェルジュになってから、神栖市にこんなたくさんの子育て支援制度や施設があることを再認識しました。子育て期は社会とのつながりを持ちにくくなりますが、市内に児童館や地域子育て支援センターなど気軽に遊びに行ける施設が多いので孤立せずに過ごすことができます。また、私たち自身も子育て期にはモヤモヤした気持ちを抱えることが多く、誰かに話を聞いてもらえると楽になったものです。その経験を生かして市民の皆さんの相談に乗り、困ったことだけでなくうれしかったことも伝えたいと思っています。お母さんが元氣だと、子どもたちも笑顔になれますから」

### 妊娠期から子育て期まで 寄り添い続ける

子育て世帯包括支援センターの主な仕事を紹介します。まず、妊娠届

の受付と母子健康手帳の交付があります。このとき一人ひとりに合ったセルフプランを作成。妊産婦マル福・神福をはじめ妊産婦健診の説明、各種セミナーの案内など、妊娠中や出産後に必要な手続きや書類などをリスト化するため、スムーズに各種手続きを済ませることが出来ます。

子育てコンシェルジュは、妊娠・出産・子育てに関する相談に対応しています。子育て世代包括支援センターや中央図書館、地域子育て支援センターへの出張相談、電話相談も実施。また児童館には、子育て広場を訪問する専任のコンシェルジュがいます。相談内容は、育児の不安や悩み、おすすめの絵本、子どもの一時預かり、保育園や幼稚園の情報など、どんなことでもOKです。

「あるとき、妊娠中の体調について夫が分かってくれないという相談がありました。それがきっかけとなり夫婦で参加する

「子育て両親学級」

をスタートしました。

また、転入してきた方からの相談を受け、市内の施設を紹介する、かみす子育て



「ウェルカムツアー」を実施しています」

ほかに、子育て応援ギフトカタログや子育て応援券の贈呈、子育てタウンアプリの紹介なども行ないます。アプリや市のホームページでは、「子育てコンシェルジュだより」「親子一緒にのうちで楽しめる工作」などの情報発信もしています。

### 私たちも活用しています

市民は子育て支援についてどのように感じているのか、大野原児童館で利用客に声をかけてみました。

栗山友里菜さんは2歳の泰斗くんと一緒に、児童館や神栖中央公園によく遊びに行くそうです。「児童館はアットホームな雰囲気で居心地がいいですね。一番うれしいのは、同世代のママ友ができたこと。子育ての悩みなど、いろいろ話しやすいし共感できます。それから、児童館で子育てコンシェルジュさんに会い、2歳の子はどういうことができるのか、市内の保育園にどういう特徴が



あるのかなど、その場で相談したこともありますよ」

岡山県出身の津川さん親子は、夫の転勤でお子さんが生後7カ月のときに引っ越してきたそうです。「来たばかりのときは不安もありましたが、実際に子育て支援制度を使ってみて、とても充実していると感じました。児童館や地域子育て支援センターを週3回は利用しており、子育てタウンアプリではイベント情報をチェックします。今は第2子を妊娠中なので、神福もありがたいですね。月2回の通院時には、ファミリーサポートセンターで、子育てサポートに上の子を預かってもらっています」

### 気軽に相談を！

今年4月3日には、波崎地域に子育て世代包括支援センターがオープン。身近なところに相談窓口が増え、子育て支援制度がより利用しやすくなります。子育てコンシェルジュにもますます会いやすくなりそうです。「子育ての悩みを一人で抱え込まず、どんな小さなことでもいいので気軽に私たちに相談してください」と話す柚木さんと早見さん。ただ制

度を整備するだけでなく、一人ひとりの心に寄り添った支援をするために、子育てコンシェルジュが皆さんからの相談をお待ちしています。

#### 育児を応援する行政サービスガイド

※通信料がかかります

#### 子育てタウンアプリ



APP Store



Google Play

#### ママフレWEB

